

病母養うけなげな姉弟 地てゆく今様 母子草

穂積さん一家に同情集る

四十幾年ぶりの厳しい寒さは人の心も知らぬげにひしひしと肌を迫る。正月とは云え待ちあぐむ籠の漁も無く何れか知らぬの忘れたような空虚の中に明け暮れている小名浜の街、思ひなしか街の夜の灯りも待ちあぐんでいるとき人の心に一足さきに春を迎えて、心温まる人情と健全な戦争犠牲者の病める末亡人母子の美しい「母子草」の話題が街を明るくしている。

話題の人は小名浜町古渡の中にしんと一縷の望みを出る入三八に住む穂積三郎(三六)さん母子を中心として師弟愛、友情、隣人愛の三つの人情から幾多の温かい心の人々によつておぼろげに照らされている。三郎さんの夫穂積三郎(當時三才)は東京市電に勤めていたが昭和十八年二月戦争は遂に三郎さんと一男一女を残して徴用といふ呪わしい命のもとに遙か南浜の彼方につれて去つたのであった。その後三郎さん一家は小名浜に疎開して激しい戦争中でもいつか歸るであろう人々を待つ三郎さん母子は幸福であつたが三郎さんの戦死の公報が終戦の年の正月に届たがそれでも信ずることが出来ず終戦を迎えたが数多い復員者の

品を寒空に近所に賣り歩路を往診してくれており、担任民生委員の丹野氏を始め、町長崎崎野氏等が金を集めて贈つて呉れたほか、沖見町の佐川君子さんのお母さんは眞新しい衣類を届けるなど、正月には級友が餅を持合つてミカン箱に入りきれないほど贈つて呉れた。こうした話がいつか街の話題となり、去る三十日消防出初式の際、年功績で表彰された大平力氏以下が金一封をもち合つた金四千圓を昨日七日役場厚生課を通じて穂積さん一家に贈つたことである。この話題の人達にいろいろときいてみた。

「文代さんとはどうした生活の中にも少しもいぢけるところがなく、明るく友誼からは信望もあり成績も上です。二月月休日に休んで三日前の試験には上の方でしたが、やはりお母さまの養育の賜ののだと思ひます。弟の誠さんや、弟の秀才で素直な子です」

泉村役場、農業委員会主催による供米完遂感謝祭は去る四日午前十一時、小学校講堂に於て行われた。

供米完遂感謝祭 慰安浪曲大会も行

品評会入賞者 知事賞(人蔘)一等(下川) 牧野幸次郎 村長賞(苗代)一等(大刺) 高木富枝、全三等(泉町) 安房秀穂、全三等(泉町) 大平忠明、小麥二等(大刺) 田山知治、大麥一等(泉町) 下遠野重次、全三等(小山) 佐藤源一郎、裸麥一等(舊藩) 大平辰夫 終つて午後一時より武蔵野華楽一行を招いての農民慰安並びに御禮の浪曲大会に半日盛會裡に午後四時半終了した。

天候予報8

【本日】始め北風で曇時々小雪の天気から後は北西の風が一時や強く晴れたり曇ったりとなりましう。明日は北西の時化が強く、左記の通り、一月十八日より強まり、何卒、御利用下さるよう注意下さい。

印刷物の御用は

小名浜の長瀬 電話二一九番

紀元節復活へ 學界人の聲を聴く

文学博士折口信夫氏 元節というものがよく紀元節復活について学問的に何年何月と算定することは難かしい、然し祖先から受継いで来た習慣であるという説明で國民に納得させることは出来ると思ふ。

「元節」といふものがよく紀元節復活について学問的に何年何月と算定することは難かしい、然し祖先から受継いで来た習慣であるという説明で國民に納得させることは出来ると思ふ。

以後は中國、朝鮮の史書を参照して是正が可能である、同時に外國史料によつて那珂博士の言う如く年代的開きが大きくなり、ほぼ書紀の紀年が正確であることも立證出来る。

文学博士肥後和男氏 學問的に建國の記念日を定めることは、今日の史學で不可能事とされている、然しそれと元節を復活するという問題とは別である。

テキサス決死隊

無法者の跳梁に憐むテキサスに秩序と平和をもたらさんと自ら死地に向う勇猛不屈のテキサス決死隊!

九日より十一日まで 小名浜 磐城座



電話新設お知らせ

毎度格別御引立を賜り厚く御禮申上げます。さて左記の通り電話を新設し一月十八日より強まりました。何卒、御利用下さるよう注意下さい。

電話(平)一三五五番

各種染料・染物・絹物・毛類店賣販
其他染料・器具・機械・切店賣販
株式会社 **ダイヤ塗料商會**
代表者 橋本 保
平市南町六七(平和通り)

久保田醫院

産婦人科
レントゲン

院長 久保田 眞一
副院長 久保田 眞一
小名浜町(電話二一九)

富士自轉車

輪界の王座
ニセモノにご注意